

昭和37年度調査研究概況

I 総合研究

1 平城宮跡発掘調査

歴史研究室 樫本亀治郎 坪井清足 田中 稔

田中 琢 岡田茂弘 河原純之

狩野 久 岩本次郎

建造物研究室 森 蘊 浅野 清 杉山信三

工藤 圭章 沢村 仁 牛川喜幸

本年度は第9、10、11次にわたって調査した。(本文2頁参照)

2 西大寺調査

美術工芸研究室

守田公夫 長谷川誠 清野智海

歴史研究室

田中 稔 狩野 久

本年度は美術工芸研究室では工芸作品を調査の主体とし(本文10頁参照)、歴史研究室は後述のように中世および近世文書を調査した。

古文書班は中世および近世文書に重点を置いたが、その量が老大なため完了することはできなかった。

しかし中世文書はもとより集会引付・日次記・奈良奉行所御触書控等の史料価値高い近世文書も少なかった。

3 仁和寺の研究

建造物研究室 杉山信三

歴史研究室 田中 稔 狩野 久

美術工芸研究室 清野智海

調査の重点は仁和寺塔中蔵に置いたが、別に重要文化財「別尊雜記」の調査ならびに写真撮影を行った。塔中蔵については第41箱—102箱までの調査を終了した。

4 日本古代都城制の研究(文部省科学研究費交付金による機関研究)

歴史研究室 樫本亀治郎 坪井清足 田中 稔

田中 琢 岡田茂弘 狩野 久

建造物研究室 森 蘊 浅野 清 杉山信三

工藤 圭章 沢村 仁 牛川喜幸

大和盆地北半の航空写真230枚を作成、佐紀町ほかの地籍図、正倉院文書、西大寺文書などについて関係資料をあつめ、今後これらの基礎資料と実測調査、現地調査を併行させることによつて、平城京の復原研究を進めていきたい。

II 各個研究

美術工芸研究室

舍利塔の様式の研究

前々より引続き舍利塔の様式の研究を行っている。唐招提寺の舍利塔は一応調査を終り、学報14冊に発表した。遂次、公表の準備を進めている。

守田 公夫

2 工芸作品に見られる文様の日本の展開の研究

守田 公夫

本研究は多くの工芸作品文様を外来的と日本的とに大別して、その発展過程を辿ることにおいて、文様の日本の展開の様相とその作品のもつ美術工芸的価値を研究する。本年度は図版に収められた工芸作品から分類し、さらに各地区において調査した工芸作品の写真をも分類した。

3 仏具の様式とその構造の編年的研究

(文部省科学研究費交付金による研究)

研究担当者 守田 公夫

研究協力者 清野 智海

本年度は既に調査されてはいるが未整理のまゝにあつた近県社寺の仏具に関する資料の分類整理を行い、協力者は思想構造を中心に「仏具」を老察し関係資料を摘出した。

4 藤原彫刻の研究

長谷川 誠

藤原和様の形成とその様式の変遷を研究するため、造立年次の確かめられる作例を調査しているが、本年度は主として従来による資料と文献資料とを整理検討した。

5 仏像納入文書集成のための調査研究

長谷川 誠

平安時代以降の仏像に奉納されている文書を集成するもので、現在従来調査収集した35例を整理中である。

6 わが国木彫の材質及び技法についての実証的調査研究(文部省科学研究費交付金による研究)

長谷川 誠

木彫の造形技法をその材質との関係関係で調査研究しようとするもので、本年度は主として唐招提寺講堂の諸像を調査し、特にティピカルな作例である伝葉師如來像、伝紫宝王像の原寸大実測図を作製した。

7 兩界曼荼羅の思想構造とその図像学的変遷に関する研究

清野 智海

本年度は九会金剛界曼荼羅図の成立に研究の焦点をおいた。まず、梵・藏・漢蔵の一金剛頂經一系経典から図像的要素を抽出し、それらが我が国の文獻資料や遺品とどのように関連づけられるか、あるいは大陸的なものと日本のものの差異を中心に考察を深めた。

8 平城京諸大寺を中心とする仏教絵画の調査研究

清野 智海

36年度実施の西大寺絵画調査の遺品のいくつかを再検討した。とくに「仁王会本尊像」に関する様式史を解明するため、主として「仁王会」「仁王經」一五大尊一の資料を蒐集した。

B 建造物研究室

1 東寺および西寺の発掘調査

杉山信三 工藤圭章 沢村 仁
岡田茂弘 牛川喜幸 河原純之

昭和37年度調査研究概況

東寺の調査は、京都府教育庁の依頼によつて、昭和37年9月同寺境内の排水路工事の際おこなつたもので、基壇延石の発見と、瓦堆積層と基壇盛土層の関係を検出し、東寺軒廊の位置を知ることができた。この結果を参照して、昭和37年12月、科学研究費による西寺の発掘調査をおこなつた。(西寺発掘調査報告概要は本文23頁参照)

2 興福寺一乗院の調査

森 蘊 杉山信三 工藤圭章
沢村 仁 牛川喜幸

このたび奈良県宇陀郡一帯の整備工事に伴い、一乗院宸殿・殿上は唐招提寺境内に移築することになった。

改体移建にさきだつて、昭和37年7月、建造物室は奈良県教育委員会による宸殿・殿上の調査に協力し、また建物撤去後の38年3月、地下調査をおこなつた。調査結果、宸殿・殿上の再建当初の平面がしられ、また隅木上端墨書銘から宸殿の再建が慶安2年3月であることを確認し、また発掘によつて尊尊僧上筆の一乗院主殿之図と同様の遺構を検出した。

3 小堀遠州関係資料の収集とその整理

森 蘊 牛川喜幸

小堀遠州の各方面にわたる実績調査に先立ち、家譜書状その他の記録によつてその造営に関与したことが明かとなつてくる慶長初年度から寛永末年にかけての関係資料を収集、複製を作ることができた。(本文29頁参照)

4 奈良市内の庭園調査

森 蘊 牛川喜幸

従来詳細な調査のすんでいない奈良市内の古庭園のうち、東大寺竜松院、今西家(福智院町)、依水園等の実測調査を行つた。

C 歴史研究室

1 高井田院寺発掘調査

坪井清足 田中 琢 岡田茂弘 河原純之
森 蘊 工藤圭章 沢村 仁 牛川喜幸

発掘調査は昭和37年11月から浅野清を担当責任者としておこなわれ、歴史・建造物両研究室が共に協力した。

検出した遺構は金堂・講堂と入られる建物遺構であつて、金堂跡では凝灰岩切石の増上積基壇がよく遺存し、講堂跡では礎石や仏壇も検出された。出土遺物には鴟尾片のほか金銅仏手、埴仏、三彩火舎等がある。

2 南都諸大寺関係文書の調査研究

田中 稔 狩野 久 岩本次郎

前年度以前より継続実施中の興福寺所蔵の文書典籍調査を行つた。また興福寺と不可分の関係にある春日神社旧社家の大宮(兼守)文書・辰市(治正)文書を調査したが、中でも大宮文書は未紹介の文書が多く、質量共に優れたものである。

3 唐招提寺経典類調査

田中 稔 狩野 久

昭和37年8月より9月にかけて実施した。(本文34頁以下参照)